

『第2回京大・名大連携報告会』報告

□ 平成21年3月3日(火)に、[京大ADMIRE計画](#)の報告会を名大「[高性能電子顕微鏡を用いたナノ・バイオサイエンス支援](#)」と連携して実施しました(協賛:日本金属学会・日本電子顕微鏡学会)。昨年東京で始めて開催した連携報告会に続いて、第2回目となる今回の連携報告会は、連携活動の更なる展開を睨んで[青森市アウガ AV 多機能ホール](#)で開催しましたが、平日にも関わらず青森県内外の産学連携関係者や一般の方々も含めて60名以上の参加者が有りました。

□ 開会の挨拶に続いて、青森県知事三村申吾氏のご挨拶を代理の関 光弘氏より頂戴しました。続いて基調講演として、田口康氏(文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課長)によって、「先端研究施設の共用とイノベーション創出」という題目で当事業の紹介と、本事業に対する期待と要請を語って頂きました。特に、H20年に制定された法律により、大学が保有する施設・設備等を可能な限り民間等の研究者に開放することが求められていることなどが強調され、大学人の意識改革が求められているとのメッセージが伝えられました。続いて、新原皓一氏(長岡技術科学大学特任教授・大阪大学名誉教授)による「極限エネルギー密度工学研究最前線」、永田文男氏(ソリューション・ナタ代表)による「電子顕微鏡で観る身近なサイエンス」と題した特別講演をして頂きました。お二人にはそれぞれ、両大学の事業に共通のキーワードである「材料」と「電子顕微鏡」について、一般の方々にもわかりやすく興味深いお話をして頂きました。両大学からの事業成果の概要報告に引き続いて、それぞれの事業成果のハイライトとして、京大側からは佐川真人氏(インターメタリックス㈱社長)による「ネオジム磁石の省資源高性能化」(代理発表:今成文郎氏)、名大側からは小舞忠信氏(有限会社 TK テクノコンサルティング代表)による「ステンレス系材料の制振性発現機構の解明」と題した講演が有りました。約二年が経過した当事業から、早くもイノベティブな成果が得られていることが報告され、施設共用事業の有用性が改めて認識されました。最後に、阿部勝憲氏(八戸工業大学教授)、山崎浩道氏(東北大学教授)、岸本弘立氏(室蘭工業大学准教授)、増子次郎氏(東北電力)、大和愛司氏(日本原燃)をお迎えして、連携事業の更なる展開と題したパネル討論を、田中信夫教授(名大側プロジェクト代表)をコーディネータとして、木村晃彦教授(京大側次年度プロジェクト代表予定)を交えて行いました。イノベーション創出のための施設共用を推進する上での地域連携の重要性等が議論され、連携事業の更なる展開の必要性が確認されました。最後に京都大学エネルギー理工学研究所の尾形所長より閉会の挨拶があり、盛会のうちに報告会を終了することができました。当日のプログラムの詳細は[こちら](#)からご覧下さい。

□ 尚、当日の様子に関する記事は、東奥日報3月4日の朝刊に掲載されました。

報告会の様子



▲会場の青森市アウガ



▲受付の様子



▲会場の様子



▲青森県知事三村申吾氏(代理:関 光弘氏)のご挨拶



▲田口康氏(文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課長)による基調講演



▲新原皓一氏(長岡技術科学大学特任教授・大阪大学名誉教授)による特別講演



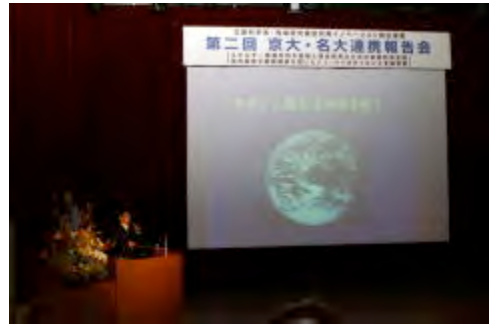
▲永田文男氏(ソリューション・ナタ代表)による特別講演



▲松井秀樹特任教授(京大)による事業成果概要報告



▲坂特任教授(名大)による事業成果報告



▲佐川真人氏(インターメタリックス(株)社長)による京大側事業成果ハイライト紹介(代理発表:今成文郎氏)



▲小舞忠信氏(有限会社TKテクノコンサルティング代表)による名大側事業成果ハイライト紹介



▲パネルディスカッションの様子

文部科学省「先端施設共用イノベーション創出事業」
第二回 京大・名大連携報告会
 協賛: 日本電子顕微鏡学会・日本金属学会

「エネルギー機器材料の創製と 保安研究のための産業利用支援」
 京大工学部 教授 坂本 誠
 「高性能電子顕微鏡を用いた ナノ・バイオサイエンス支援事業」
 京大工学部 教授 平野 真一

講演時間: 午後21時3分3秒
 13:00-17:00
 会場: 京大東大ホール「アウロ」5F
 入場料: 無料 (240名)

特別講演: 佐川真人氏 (インターメタリックス(株)社長)
 小舞忠信氏 (有限会社TKテクノコンサルティング代表)

パネルディスカッション: 坂本 誠, 平野 真一, 佐川真人氏, 小舞忠信氏

お問い合わせ: 0774-30-4993 (FAX: 0774-33-4561)
 メール: y-@ndr@net.kyodai.ac.jp

報告会の広告(東奥日報平成 21 年月日朝刊掲載)



電子顕微鏡 活用例など紹介

「本県研究機能強化を」

京大・名大 青森で産学報告会

企業に研究施設を無償利用させる「先端研究施設共用イノベーション創出事業」を展開している京都大学と名古屋大学が三日、青森市のアウフで事業の共同報告会を開いた。県内の企業・研究機関関係者や市民ら約五十人が出席し、高機能の電子顕微鏡を利用した企業の報告などに耳を傾けた。また、八工大教授らが討論で本県の研究機能強化を訴えた。

成果報告では、京都市のインターメタリックス社が、従来型の十倍の磁力を持つ「ネオジム磁石」の性能向上技術を、京大の電子顕微鏡で確認した事例を紹介した。また、横浜市のTKテクノコンサ

産学協同の課題について討論する研究者ら

ルディング社は、ステレンスの三倍の速さで振動を吸収する「H1DAS（ハイダス）合金」の開発で、ステレンスとの特性の差を調べるため、名大の電子顕微鏡を利用した取り組みを報告した。

パネル討論で、阿部勝憲・八工大教授は「本県が、他地域から

研究者がやってくる研究拠点になるよう務めたい」と強調。増子次郎・東北電力青森支店副支店長は、エネルギー研究施設の誘致や人材育成が必要と述べた。

た。さらに日本原燃の大和愛司専務が、超耐熱性を持つ材料開発や超精密加工技術など、イノベーション（技術開発）への期待を語った。

翌日の東奥日報朝刊の記事

※この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。